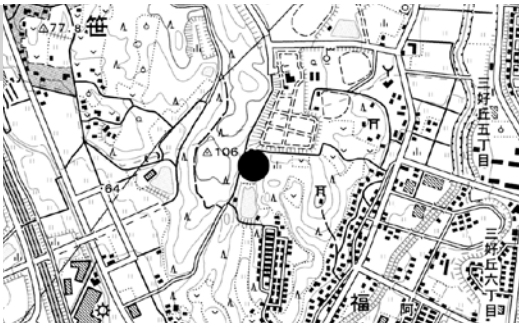
## K - G -93 号窯跡

所　在　地　西加茂郡三好町大字福谷
（北緯 35 度 07 分 12 秒　東経 137 度 06 分 05 秒）
調 査 理 由　緊急地方道路整備事業（主）豊田知立線
調 査 期 間　平成 18 年 9 月～ 12 月
調 査 面 積　750 ㎡
担　当　者　小澤一弘・宇佐見守



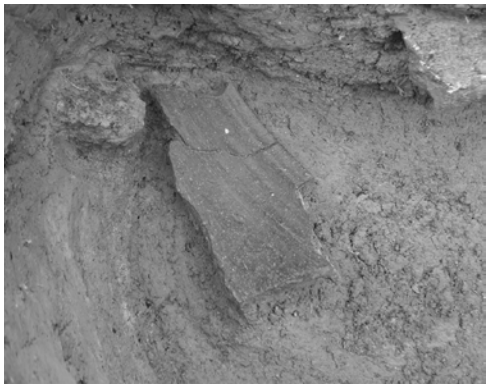
調査地点（1/2.5万「平針」）

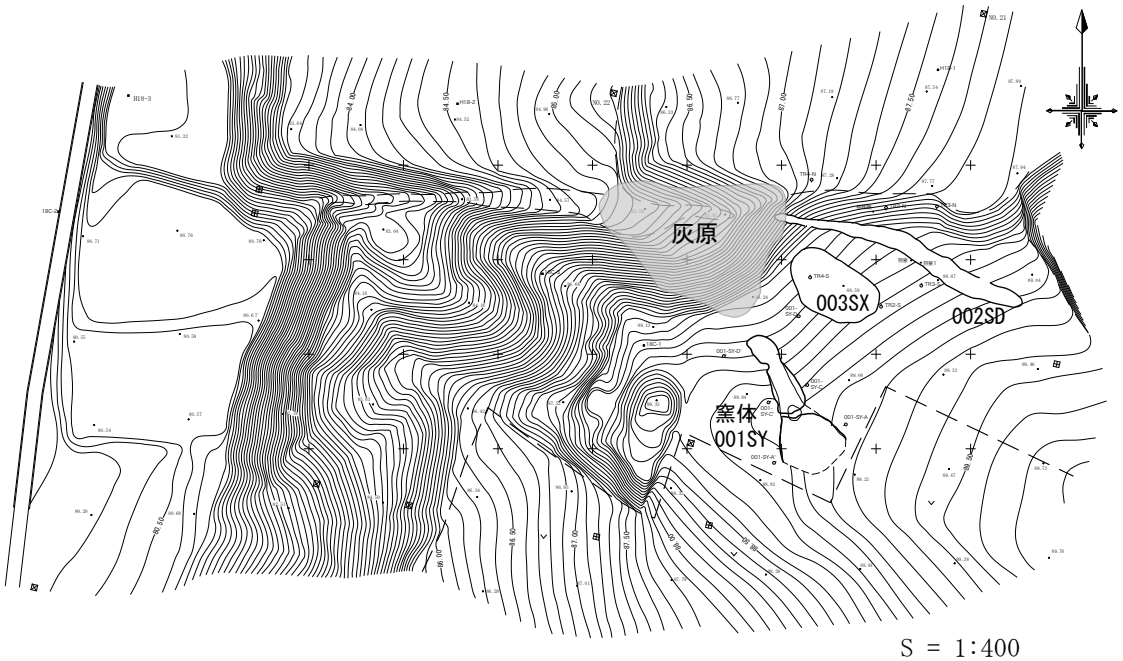
**調査の経過**　本遺跡の発掘調査は、県道豊田知立線の建設にともなう事前調査として、愛知県建設部道路建設課より愛知県教育委員会を通じた委託事業として、平成 18 年 9 月から 12 月にかけて実施した。調査面積は 750 ㎡である。

**立地と環境**　本遺跡は西加茂郡三好町の北部に位置し、境川とその支流である小石川に挟まれた標高 88 mの丘陵上に立地している。遺跡の北には昭和 63 年に発掘調査され、現在、町指定史跡として保存されているK -27 号窯跡がある。

**調査の概要**　調査区南東部の平坦面で、窯体（SY01）と粘土溜り（SX03）を検出した。窯体は開墾により上部を削平されていたものの、分焔柱付近で天井が残存するなど、燃焼室から分焔柱にかけての残存状況は良好であった。焼成室の壁面には、地山を掘り抜く時に付いたと考えられる工具痕が明瞭に残存し、壁に粘土を貼付することなく焼成していたことが判明した。一方、床面は残存状況が良くなく、現位置を保つ焼台は 1 点のみであった。床の下には粘土が敷き詰められ、それを取り除くと、壁と同様に工具痕が確認できた。窯内からは、窯壁とともに、窯出し時に廃棄されたと考えられる山茶碗の碗・小皿（斎藤編年第 VIII 期第 1 型式）が多数出土した。他には、調査区東部中央で東から西に流れる谷状地形（SD02）を検出した。底から近代の陶磁器が出土し、SD02 とそれに続く当初 SY01 の灰原と想定していた谷状地形は近代以降に形成されたことが判明した。ただし、ここからは SY01 から出土したものより 1 型式古い山茶碗の碗・小皿と陶器の羽釜・鍋が比較的多く出土した。猿投窯で陶器の羽釜・鍋が出土することは珍しく、搬入品とも考えられるが、灰が溶着している失敗品であることと、赤褐色をした焼台が出土していることから、周辺にこれらの製品を焼成した窯が存在した可能性が高い。（宇佐見守）

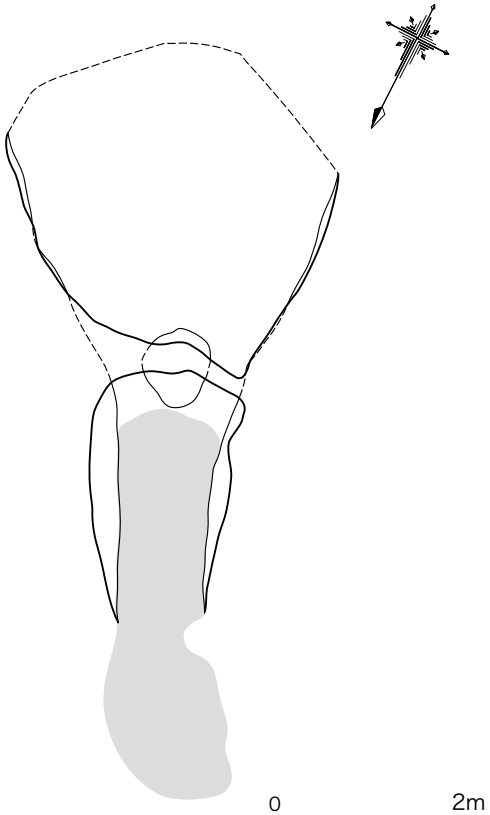
SX03


羽釜出土状況




S = 1:400

主要遺構配置図




SY01 平面図

S=1/80

SY01